

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203568		
法人名	医療法人社団五聖会		
事業所名	グループホーム 向日葵		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町10丁目374番地		
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3370203568-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25 年 10 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族と密に連絡を取り、訪問しやすい環境作りを心がけている。 ・医療・介護・リハビリテーションの充実したチームケア ・柔軟で元気で明るい職員 ・活気・笑いのある生活 ・入居者と職員の仲が良い ・密にコミュニケーションを取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>訪問して感じたことはとにかく利用者が元氣だということ。職員と利用者はもちろん、利用者同士も家族のように和やかに会話をしている。また、訪問した私達にも明るく笑顔で話しかけてくれるのがうれしい。食事は利用者の希望を聞きながら、3食手作りで提供しており、職員も一緒にテーブルにつき、「次は何食べたい?」「なに作ろうか?」「どうやって作るの?」と母と娘のような会話が弾んでいる。102歳という高齢の利用者も最後まで自分でしっかり食べられていた。母体となる児島聖康病院とも日頃から行き来があり、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士から専門的なアドバイスを受けることができる。院長や看護師のフォローも手厚く、利用者が安心して暮らせる体制となっている。また、管理者を始め、職員が明るく仲がいいことが事業所全体の雰囲気をかもしだしている。このことが利用者にもプラスの影響となり、これからも元氣と笑顔が増えていくと感じる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩や通院時、地域の行事などに参加し、ご近所さんと馴染みの関係、コミュニケーションをとれるようにしている。	利用者の残存能力を活かしつつ、利用者が望む生活を送れるよう支援を心がけている。外出したいなど利用者一人ひとりの希望を叶えることにも力を入れている。月1回の職員会議にて理念について振り返る機会も設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ユニットの買い物や行事など、地域のお店を利用させて頂いている。職員や入居者の顔を覚えて頂くことで、会話しやすくしている。	地元から入居している利用者が多いため、行きつけの商店や美容院などに出向くことが多い。地域の祭りがとても盛大で利用者も思いが強く、見に行くのを楽しみにしている。職員はこれまでの利用者の生活ぶりを把握し、できるだけ地域の中で暮らすことに力を入れている。中学生の職場体験や実習生を受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1度、地域の新聞にて情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、結果をサービスの向上に役立てている。	2か月に1度開催している。地域包括支援センター、家族代表、民生委員等が参加し、事業報告や職員の紹介、家族との意見交換など行っている。民生委員から地域の情報を得ることができ、秋祭りなどに参加するなど地域との交流に繋げている。	運営推進会議の参加メンバーが固定されているように見受けられます。今後は新たなメンバーにも参加していただき、多様な意見交換ができるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険の更新や変更の申請時に生活状況を伝え、連携している。また、分からないことは随時市町村にお尋ねをしている。	分からないことがあれば随時質問するなど連絡している。また、介護認定など必要な手続きは窓口に出向くこともある。倉敷市からの研修の知らせがあれば、できるだけ参加している。	市町村の担当者に事業所の取り組みや利用者の様子などお知らせしたり、運営推進会議への出席を働きかけてみるのはどうでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はあるが、身体拘束をしない事を基本にケアを行っている。	施設の近くの国道は昼夜問わず交通量も多く、利用者の身の安全を守るため、玄関や非常階段出入り口など施錠しているが、居室の窓は自由に開けることができる。マニュアルを基に身体拘束の事例について職員同士で話し合ったり、研修にも参加している。やむを得ずミトンを使用した事例もあるが、月1回検討会を行い、できるだけ早期に外せるよう努力をし、現在は中止している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日頃より、入居者に対する言葉かけ等にも気を配っている。個人の意識レベルの向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利、尊厳についての勉強会を行い、個々のレベルアップを図り、活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所としての取り組みや目指す方向性を説明し、納得していただけるようにしている。また、家族の意見や希望も取り入れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まずは、ご家族が面会に訪れやすい雰囲気作りを心がけ、意見、要望、知りたいことを気軽に話しやすい関係作りを力を入れている。	玄関先に意見箱を設置しているが、ほとんど活用されていない状況である。面会時には生活の様子を報告し、家族の意見や要望を聞くように心がけている。月1回は担当職員から利用者の様子や写真をいれた手紙を送っており、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1、2度、会議を開き、意見、情報を共有し、業務に生かしている。	職員同士の仲が良く、日頃からコミュニケーションが図れている。事務長も気さくで話しやすい雰囲気があり、職員と接し意見を聞いてくれる。月1回、ユニット毎に会議を行い、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。挙げた提案について、まずは取り入れて実施し、その後検討をするよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個別カンファレンスを行っている。働きやすい環境作りを大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会に参加しやすいようにしている。また、苦手分野に対する個別指導やアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修会に参加しても業務に支障が出ないよう、人員確保をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にてご家族、ご本人にじっくりと話を聞いている。環境が変わることに対する不安を和らげるよう心理的なケアサービスが提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の望まれるもの、ケアを把握している。また、訴えやすい関係作りを大切にしている。また、お手紙にて状況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態は随時変化しており、即、対応できるよう職員、家族で連携をとり、サービスの内容を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いをせず、出来るだけご本人の生活パターンやペースを尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1度、状況報告のお手紙を書き、コミュニケーションを図っている。時には、ご本人に家族への電話も提案し、実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、担当の美容師さんなど、昔からのお付き合いの方々が訪ねて下さっている。また、職員はご本人の好きな場所へ外出できるよう、個別の支援も行っている。	地元の行き慣れた商店へ買い物に出かけるとまたま知人や家族と出会い、立ち話をすることもある。また、自宅付近をドライブしたり、近隣を散歩したりすることもある。海が近いので天気の良い日には見に行くこともある。本人の行きたいところへ外出できるよう、個別での対応にも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活する者同士としてコミュニケーションがとりやすいよう職員が間に入っている。時には席替えも行い、いろいろなかたと関われるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や家族と顔を合わせることがあれば、近況を尋ねている。先日は現入居者と共に、面会に伺いました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見、要望の訴えが可能な方については、出来るだけご本人の意思を尊重している。困難な方の場合についてはその都度お尋ねし、確認するようにしている。	日常の会話から本人の意見や要望を聞き、十分に把握するよう努めている。困難な場合は家族からも聞き取りを行っている。職員が聞いた事をきちんと記録し、情報を共有している。利用者一人ひとりのバックグラウンドを知ることで今現在の利用者の状態だけでなく、視点を変えて利用者の思いを把握するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在に至るまでの状況を把握することにより、個人に対する思いも深くなり、ケアに活かせる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得意とする分野や、昔から続けている趣味などが続けていけるよう、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者や家族とのカンファレンスを通じ、改善すべき内容を計画に盛り込んでいる。家族の希望も同様です。	ケアマネージャーが中心となり、職員で意見交換を行い、介護計画を作成している。計画の見直しには必ず本人や家族に希望や要望を尋ね、反映するよう心掛けている。主治医、看護師、理学療法士等とも日頃から情報を共有し、意見を聞き、取り入れている。家族の希望もあり、リハビリを取り入れている利用者が多く、担当するセラピストと連携を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有を重視している。協力医療機関やリハビリテーションとも密な連携を図っており、ファイリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安楽な生活の確保の為、業務内容の見直しを職員全体で相談し、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他介護事業所との連携により、地域で活動している歌手のコンサートを施設でお見せして差し上げることができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の望まれる治療に対し、必要に応じた受診の支援を行っている。ご家族の希望される外部の医療機関へも受診している。	入居時、本人や家族に希望を尋ねるが、同法人の病院をかかりつけ医にと希望される方がほとんどである。病院が隣接しているため、月2回程度職員と一緒に歩いて通院している。24時間体制での対応もあり、安心できる。眼科や歯科等、他院への受診は職員が送迎や付き添いを行っている。週1回の訪問看護により健康チェックも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細やかな状態変化を随時相談している。個々に応じた適切な医療を受けることが出来ていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行う	入院時は2日に1日ペースでお見舞いし、状態の把握が出来るようにしている。医師、看護師に情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて、話し合いを医師、家族を交えて行っている。職員も勉強し、支援している。	本人と家族の意向を大切に、できるだけ施設で過ごせるよう支援をしている。同法人の病院より医師、看護師のバックアップはあるが、常時医療処置が必要になった場合は入院をお願いしている。家族から病院ではなく最期までグループホームで見てほしいと希望があり、みんなで話し合い、亡くなる3日位前まで支援を行った例もある。勉強会なども実施し、ターミナルケアへの認識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応できるよう、マニュアルを作成しており、勉強会で実施、指導してもらえるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認、環境整備を行い、防災対策をしている。倉敷市防火協会主催の消火技術訓練大会へも出場している。	年2回、法人合同で火災避難訓練を行っている。消火訓練には消防署指導のもと、本物の消火器を使用している。業者により救助袋や防災設備など定期点検も行っている。施設職員は順番に倉敷市防火協会主催の消火技術訓練大会へ出場している。今年は管理者の2人が出場した。水害時には2階への避難を考えている。	今後は水害や地震も想定し訓練を行ってみたいかどうか。また、緊急時には近隣住民や地元の消防団等の協力も得られるよう、運営推進会議等で話し合い、働きかけて頂くことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	たとえ短い時間でも、個人の居室に訪れ、マンツーマンで会話をすることを心がけている。自信を回復され、自尊心の維持を大切に考えている。	利用者に対し目上の人という意識をもち、失礼のないよう声かけをしている。毎日一人ひとりの居室を訪問し、言葉を交わすよう心掛けている。また、朝晩の挨拶は必ず行う、和室で休む時は障子を閉める、脱衣所のカーテンを閉める、トイレはノックする等、何気ない事を忘れずに行えるよう職員全員で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた質問をし、意思を汲み取っている。日常の何気ない会話の中から拾っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や、精神面を考慮し、臨機応変な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	染毛やお化粧品、衣服の買い物など希望があり、随時対応している。気持ちが明るくなり、外出意欲が湧いてくる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族から差し入れて頂いた野菜や果物を使い、メニューを考えている。誕生日には好物を提供し、イベントではビュッフェ形式にしたりと工夫している。入居者に作り方を教わる事もある。	利用者の希望を聞きながら3食手作りの食事を提供している。訪問日の昼食はいなり寿司。お皿には裏返した油あげと丸めた寿司飯が用意され、利用者がそれぞれ自分のいなり寿司をくるんでいた。とても面白い試みで利用者も楽しんでた。同法人の言語聴覚士による嚥下状態の評価があり、食事形態等の相談に乗ってもらえる。食事が楽しめるよう、外食や出前なども取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、栄養摂取量を把握し、必要な方には個別で高カロリー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には声かけ、見守りをして介助している。状態に応じ、ガーゼなども使用する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位の取れる方は紙パンツを着用していただき、定期的なトイレ誘導を行っている。	一人ひとりに合わせた排泄のケアを行っている。トイレでの排泄が全員行えるよう支援している。夜間はぐっすり眠れる事を大切に、無理に起こさずにオシメやパットを使用するなど配慮している。水分や牛乳の摂取、腹部マッサージ、軽運動など便秘対策も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、排便コントロールしている。方法は、飲食物、運動、緩下剤など。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタルチェックで体調管理している。個々の好まれる順番や時間帯の希望に出来るだけ添うようにしている。	毎日13時から入浴が始まり、週2～3回入浴できるよう支援している。本人の希望で毎日入浴する方もおられる。浴室には利用者の力を活かせるよう、たくさんの手すりが設置しており、安心できる。浴槽の出入りに不安があれば、同じ建物内にあるデイサービスでリフト浴を使用することもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に個人の思うように生活して頂いている。共用スペースにおいても、ご自分の好きなソファや椅子など選ばれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後からの状態観察の情報を共有している。効果について不明な点は随時看護師に尋ねている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前からの継続してお願いしている仕事、役割を奪わないよう配慮している。作られた作品など、玄関や共有スペースに飾っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所のスーパーや、地域のレストラン、行事、個別の散歩や外出など提案している。閉じこもりの生活にならないよう心掛けている。	少し歩くと瀬戸内の海が見えて景色も良く、天気の良い日には近隣へ散歩に出かけている。同法人の受診へも職員と一緒に徒歩や車いすで出かけている。花見、紅葉狩りなど季節に合わせた外出行事を企画したり、個別で行きたい場所へ出かけたりしている。外出が好きな利用者が多いため、できるだけ取り入れる様心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお小遣いを管理されている方は、通信販売や外部医療機関受診等にて支払いされている。ある程度は個人にお任せしているが、用途については確認している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話できない方も職員が仲介し、電話して頂いている。また、こずかった手紙を職員が投函している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や観葉植物、飾り付けなど、家庭的な雰囲気大切にしている。また、毎月のテーマの飾りを職員と共に作り、達成感を味わって頂いている。	玄関ホールも、リビングも、十分な広さがあり車いすでもスムーズに移動できる。南面の壁は大きな窓となっていて、明るく解放感がある。1階キッチンの壁には鏡を取り付けていて、職員が少ないときには死角となる居室が見え、利用者の動きが分かるようになっている。利用者が作成したペーパーフラワー、ちぎり絵、水彩画など飾られ、観葉植物や生け花で季節を感じることができる。畳コーナーにはコタツも配置されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間については、個々の思う場所、仲間と過ごされている。中には時間帯により居場所を決めている方もいらっしゃる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から馴染みの深い家具や飾りを持参され、使い勝手のよいように配置している。ニーズに合わせてその都度、模様替えしている。	ベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられ、その他の必要な家具や身の回りの物は本人、家族が持ち込んでいる。本人が趣味で作ったパンフレットの作品や好みの服、若いころの写真、家族の写真など飾られており、利用者の生き方や思いが想像できるような部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一を考えた環境作りに留意している。			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203568		
法人名	医療法人社団五聖会		
事業所名	グループホーム 向日葵		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町10丁目374番地		
自己評価作成日	平成 25年	10月	1日
評価結果市町村受理日			

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=3370203568-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年	10月	13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第2ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩、リハビリへの送迎中の職員から声をかける事によって、地域の方々との話が出るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する児島聖康病院への外来通院の往復に立ち話や、待合いの会話をするようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の新聞折り込みのタウン誌は掲載を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況、アンケート等の結果、イベント開催等の報告を行い、推進会議参加者と意見を交換し、その結果をサービス向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新などの施設訪問時に市担当者等の方々などと連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、拘束しないケアの方法を考え、危険防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する、実践に基づいた資料とを用い、勉強会を行い、職員のレベル向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する意識を持ち、法や制度を理解するための講演会、研修会等を積極的に参加できる体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時事業所の取り組みや、考え方を説明し、納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは手紙、面会、電話等にてのお話を通じ、意見、要望等が気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議等を行い、意見、提案などを業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会にて積極的に参加できる、勤務体制、状態にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会にて積極的に参加できる、勤務体制、状態にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談でご家族やご本人様より時間をかけて、じっくりとお話を聞き、ご本人とのコミュニケーションを確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いにより、求めていることを把握、理解して、何が出来るか職員で話し合い、実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、家族の思いや状況を把握し、何が出来るか、職員で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をして頂くことを理解して、日常生活を共に支え合える関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活、出来事などを手紙、電話等でお知らせ、報告相談などを行っている。面会時には落ち着いて話が出来るように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月、お盆等にご自宅へ帰るなどして頂けるように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション中、食後等のゆったりとした時間に職員を含め、お互いの話をして頂くように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や家族等の方たちにホーム以外でお会いすることがあれば、声をかけ、最近の様子を尋ねるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、個々の考えや思いを汲み取り、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在に至るまでの生活状況を知る上で、職員が出来る事が見えてくる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が生活をしていく上で、出来る事はしていただくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中で、思いや意見を聞き、職員と意見交換やカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、日々の暮らしの様子等を記録確認、申し送り等をして業務に入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が落ち着いて過ごされるように、その都度業務内容の変更等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員さん等に情報をいただき、参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、変化が見られれば、受診往診が出来るように連携を密にとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化に応じた支援を行えるように確実に連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時には1～2日置きに様子を伺い、洗濯物等を取りに病院へ訪問し、状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての勉強会等を行い、対応できるように、安心して頂き、最後を迎えられるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強、実施、指導について、職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難経路の確認、防災対策などに役立てている。また、倉敷市防火協会主催の消火技術訓練大会へも参加し、職員の防火意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人のプライバシー大切にして、本人主義のケアやその時々に応じて1対1で話をすることもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーション中、食べたい物、飲みたい物、したい事などを汲み取り、自分で決めていた頂く選択の提案も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々に体調を把握して、本人の思いや気持ちを大事にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着等、ご自分で決めて頂き、必要とされた時には職員が手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のコミュニケーション中に季節の食べ物などの話を行い、メニュー作成の参考にしてている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランスを考えながら、摂取量を把握し、摂取量などが足りないときには高カロリー食品などで栄養摂取をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は、声かけ、見守りをし、できない方には、クルリブラシ、ガーゼ等で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズム把握し、トイレ誘導を行うようにして、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを記録して、便秘の方には水分補給や、腹部マッサージ等を行い、それでも排便がなければ、主治医に相談し、緩下剤の内服も行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調を考慮し、タイミングに合わせて、入浴していただくようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけではなく、フロアのソファ、マッサージチェア、畳コーナーにて休んで頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、薬事表記録にて内容を把握、確認できるようにしている。服薬時には手渡しして、確実に服薬されたのを確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は手伝って頂き、感謝を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を増やすように心がける。短時間でもドライブ、買い物等に出かけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時には、本人より支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に手紙、電話等をしやすい環境を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下等を利用しやすい位置にしてある。季節を感じられるように花を生けたり、壁に季節等の手作りの者を飾るように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーコーナー、畳コーナー等に座り、気の合った利用者様同士で過ごせるスペースを工夫して取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使用されていた家具などを居室に置くことで落ち着かれ、居心地良く頂けるように心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に応じて、職員で話し合い、環境整備するようにしている。		